



山梨県言語聴覚士会

副会長 赤池 三紀子（湯村温泉病院）

長い活動実績に若い会員の積極的な活動が加わり、 熱気あふれる組織運営をしています。

山梨県言語聴覚士会は今年で設立14年になります。長い活動実績のおかげで全国の言語聴覚士から、「山梨はよくやっていますね」ということばをいただきます。小さな県の小さな組織でそのことば通りの充実した活動ができているのか、今回振り返ると同時に皆様にご紹介したいと思います。

山梨県内には今でも言語聴覚士の養成校はなく、現在130名の会員の約半数が県外出身者です。そのため、県士会組織としては会員の学術・技能レベルの研鑽と教育に重点をおいた活動を続けています。昨年度ははじめて組織改編を行い、それぞれの部局はさらにパワーアップしました。まず、講演会や症例検討会を年10回実施している学術活動では臨床基礎知識や技術に関する講義と接遇などのマナーを学ぶ新卒者研修会を年4回加えました。協会と同様、若く社会経験の少ない言語

聴覚士が1/3を占め、臨床以前の対応が問題になっていることからこの研修が始まりましたが、参加率は毎回ほぼ100%を誇っています。また、国の施策に合わせ、新たに社会局を追加し、医療・介護保険領域の連携や地域連携支援事業での活動の拡大・普及を図っています。県や市町村との協力事業が増え、一昨年に作製した介護予防健康長寿体操DVDは学会発表を通じてご存知の方も多いのではないでしょうか。広報局ではホームページを一昨年の言語聴覚の日に合わせてリニューアルし、費用が少ない割には充実した構成でタイムリーに運営されています。当サイトでは「会長の部屋」が最も人気です。ぜひアクセスしてみてください。これらの部局活動は、会員一人ひとりの組織構成員という意識や責任感が大きな原動力になり維持できているものと確信しています。

山梨
YAMANASHI



講演会風景



山梨県言語聴覚士会 理事



ニコニコ長生きやまなし体操の CD



理事会の様子

来年度の一般社団法人化を目指し、 社会に貢献する多彩な活動を展開してまいります。

一方、地方組織としては昨年7月には協会の全国研修会を無事に開催することが出来ました。その際のチャリティー活動では多くの皆様に協力をいただき、7万円を超える支援金を福島県言語聴覚士会に寄付できました。同じく昨年より、山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会と3士会合同連携事業を開始しています。その1つとして、山梨県訪問リハビリテーション協議会を立ち上げ11月には実務者研修会を実施しました。さらに3士会合同学術大会の開催が平成26年度に決定され具体的なスケジュールも動き出しました。また、山梨県理学療法士会および山梨県理学療法士連盟の協力により、全国的に初の試みとなる言語聴覚士会単独で前衆議院議員の山口和之

福島県理学療法士会会長を招いての講演会も開催します。これらの活動は他県では例のない企画であり、全国の地方組織の連携のモデルとなるよう今後も3士会の連携強化を図っていきます。

来年度当会は、すでに社会活動として評価に値する活動をさらに普及・拡大しその公益性を確保するために一般社団法人化を予定しています。今後も活動を通じ社会に貢献できる団体として、多様化するニーズにこたえるべく進化し、さらに成長していけるよう努力していきます。今後とも山梨県言語聴覚士会にご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。